

オーストラリアにおける国際バカロレアを利用した大学入試に関する調査

入学センター 杉原敏彦、高地秀明、永田純一

国際バカロレア（以下「IB」）は、国際バカロレア機構が提供するグローバル人材の育成に優れた教育プログラムであり、世界 140 以上の国・地域で導入されています。このうち高校レベルに相当するディプロマプログラムは、国際的に通用する大学入学資格（IB 資格）の取得を目指すものであり、世界のトップクラスの大学がこの資格を持つ者の受入を行っています。

この度私たちは、IB 資格取得者の受入人数では世界有数のオーストラリアのメルボルン大学と地元メルボルンの伝統ある IB 校、ウェスリー高校を訪問し、大学においてはその選抜方法を、高校においてはその教育内容をそれぞれ調査しました。

メルボルン大学では、IB 資格を持つ志願者の IB スコアを ATAR（オーストラリア高等教育入試換算点）と呼ばれるスコアに変換し、そのスコアを主な評価資料として学部・学科ごとに合否判定をする仕組みを学ぶことができました。

一方、ウェスリー高校でお聞きすると、大学進学の出願資格として、ビクトリア州の高校卒業資格である VCE の取得を目指すか、または IB プログラムを履修し IB 資格の取得を目指すか、各生徒が希望によって選択しているとのこと、また、それぞれの希望人数はおおよそ半々とのことでした。ただ、IB 資格取得を目指す生徒は概して真面目で、オールラウンドに優秀な者が多いそうです。同校の生徒の約半数はメルボルン大学（THE 世界ランク 33 位）やモナシュ大学（同第 73 位）に入学するのですが、どちらかという IB 生の方がより優秀だということです。さらに、IB プログラムはアクティブラーニングを重視し、たとえば「日本語」の授業でも、VCE クラスでは「読む」「聞く」だけだが、IB プログラムの授業では「話す」「書く」というスキルも組み入れられ、よりアクティブな学びが尊重されていました。

広島大学においても、今年度（平成 29 年度入試）から IB 入試を導入する予定ですが、そのために非常に有益な調査となりました。

（訪問日：平成 28 年 5 月 17 日～平成 28 年 5 月 19 日）



メルボルン大学でのインタビュー



ウェスリー高校でのインタビュー



メルボルン大学のキャンパス風景